

「第4回東北ブロック下水道ビジョン策定委員会開催」

3月11日（木）仙台市内において、「第4回東北ブロック下水道ビジョン策定委員会」が開催されました。昨年の6月に委員会が設立され、これまで東北地方の下水道の現状と課題の説明、P Iの実施、下水道に係る目標像や今後の取り組み等に関する討議が行われてきました。今回はこれまでの審議を受け「下水道ビジョン（案）」を提案したものです。

ビジョンの内容は、タイトルを「みちのく下水道ビジョン～豊かな心を育む水と大地を次の世代へ～」とし、目標像を2つの柱（美しい東北の水環境・水循環の保全、環境への貢献）と2つの基盤（快適なくらしの実現、雪や災害に強いまちづくり）、そしてこれらを結ぶ柱として（連携・協働の推進）としました。目標像実現のための下水道の役割を示すとともに、整備局と各自治体の取り組みについても表記いたしました。

各委員より概ね了解を得ましたので、今後は正式にとりまとめを行い、記者発表の予定です。次にパンフレットを作成し県・市町村の下水道担当者に周知を図ります。さらに、来年度から下水道汚泥の有効活用を促進するための勉強会を開始する予定です。

「みちのく下水道ビジョン」の目標像の達成に向けて市町村・県・整備局が協力して取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



委員会における討議の状況

第4回東北ブロック下水道ビジョン策定委員会 議事録(案)

日 時：平成16年3月11日(木) 15:00～17:00

場 所：仙台サンプラザ(宮城野の間)

出席者：

委 員 阿部委員、江成委員、中村委員、野池委員長、森川委員、横山委員
行政連絡会 国土交通省：東北地方整備局 黒田建政部長 他
東北6県・仙台市：下水道事業主管課長 他

議 題：

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 議事
 - 1) 第3回委員会での意見とその対応
 - 2) 下水道ビジョン(案)
 - 3) その他

配布資料：

- 資料 - 1 第3回策定委員会議事要旨
- 資料 - 2 第3回策定委員会での意見とその対応
- 資料 - 3 下水道ビジョン(案)
- 資料 - 4 説明資料

1. 主な意見等

「下水道ビジョンのタイトル案」について

- ・ 非常に完成度が高く、よいと考える。
- ・ 基本的には、賛成であるがサブタイトルの部分で、「育む」がよいのか「育み」がよいのか、また「水と大地」とあるが、ビジョンの本文や目標の中では大地に関する内容があまり出てこない理由から「大地」でよいのか気になる。
- ・ 大変よいサブタイトルだと考える。「育む」と「育み」であれば「育む」の方がよい。また、「次の世代へ」との表現は非常によい。
- ・ コンポストの利用に関しては、行政連絡会議で色々論議があるとの話であったが、全国的にはコンポストの利用促進が積極的に検討されており、サブタイトルの「大地」という名称はビジョンの目標でもあり入れておいた方がよい。
- ・ 事務局原案のタイトルでよいと考える。「大地」という表現もあった方がよい。
- ・ 第3回委員会での意見等をもとに、タイトル案が東北ビジョン内容にふさわしい名称となり委員会としての大きな成果である。今後、この成果を生かす上でも「連携・協働」が重要な意味を持つこととなることから、専門家のみでなく住民の方々にも分かりやすいという観点から、事務局のタイトル案がよい。「大地」の部分を経営に直接的に盛り込むのは難しいかとは思いますが、「水と大地」の名称は非常に分かりやすい表現であり、すばらしいサブタイトルである。

「下水道ビジョン」目標像の優先順位について

- ・ 目標像の優先順位について前回委員会の意見を踏まえた内容で整理しておりよい。

「下水道ビジョン」実施について

- ・ 「水をきれいにする」ためには事業を実施するための予算の確保が大切である。したがって、国土保全や自然環境をよくするための予算の確保ができるように積極的に取り組んで頂きたい。また、汚水処理施設を建設しても、これを使用する住民の皆さんが極力排出する負荷を減らすことを考えてもらわなければならない、環境に対する教育や啓発も大切となる。また、福島県では下水道普及率が低いことから、もっと国の方でも財政基盤の弱い市町村に対する補助政策を積極的に行って頂きたい。
- ・ 今の時代は「説明責任」と「事後評価」が問われており、各自治体の取り組みにおいて目標に対する事後評価に関する記述はあるが、何らかの評価をする必要がある。「下水道ビジョンの策定」に携わったものとして、後にビジョンがどうなったのか気になるので、フォローアップする方法を考えて頂きたい。
- ・ 今後は、国、県、各自治体の連携・協働作業の部分になっていくかと思うが、他省庁が連携しないと実施できない部分もあり、「エネルギー - 利用」、「バイオマス利活用」あるいは「予算の確保、活用」などに関して連携していく方法を考えて頂きたい。
- ・ 下水道側でコンポスト等の有機物資源を製造しても廃棄している事例もあり問題である。したがって下水汚泥の有効利用を図る上でも、今後ともぜひ各省庁間で連携した施策として頂きたい。
- ・ 日本の食糧自給率が40%程度で海外から食料が輸入され、有機物のバランスが崩れている。有機物の循環の観点から、もっと国民の皆さんが意識して日常生活を過ごしていかなければならない。
- ・ 今後は、環境教育を積極的に取り組む必要がある。

「下水道ビジョン」の記述表現等に関して

- ・ 資料 3 - 1 基本理念部分の文章が長いので再考して頂きたい。
- ・ 基本理念部分に、「三陸海岸などで豊富な水産資源が得られるのもきれいな海があるから」との表現も加えて頂きたい。
- ・ 専門用語を一般の住民も分かりやすい表現として頂きたい。また、整備局の取り組みには「技術開発の促進」も入れてはどうか。

2. 今後について

(事務局)

- ・ 本日いただいた意見を受け、修正案を野池委員長に確認いただき、「みちのく下水道ビジョン」とする。
- ・ ビジョンのパンフレットを作成し、まず各市町村担当者に周知を図り、目標像達成にとりかかる予定である。
- ・ 今後も各委員からのご意見をいただく場を設ける予定である。市町村・県・国との連携・協働をお願いしたい。

(事務局提案に対し、各委員了解)

以上